

慢性硬膜下血腫における局所線溶活性亢進:  
プラスミン- $\alpha$  [2]-プラスミンインヒビター複合体(pla  
smin- $\alpha$  [2]-plasmin inhibitor  
complex)および $\alpha$  [2]-プラスミン  
インヒビター( $\alpha$  [2]-plasmin  
inhibitor)の意義について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/15087">http://hdl.handle.net/2297/15087</a>

学位授与番号	医博乙第1201号
学位授与年月日	平成4年12月2日
氏名	齋藤研一
学位論文題目	慢性硬膜下血腫における局所線溶活性亢進 —プラスミン- $\alpha_2$ -プラスミンインヒビター複合体 (plasmin- $\alpha_2$ - plasmin inhibitor complex) および $\alpha_2$ -プラスミンインヒビター ( $\alpha_2$ -plasmin inhibitor) の意義について—
論文審査委員	主査 教授 山下 純 宏 副査 教授 松田 保 教授 橋本 和 夫

### 内容の要旨および審査の結果の要旨

慢性硬膜下血腫患者63例73側において、硬膜下血腫内容液上清中の線溶活性因子であるプラスミン- $\alpha_2$ -プラスミンインヒビター複合体 (plasmin- $\alpha_2$ -plasmin inhibitor complex, PLN-A 2 PI complex),  $\alpha_2$ -プラスミンインヒビター ( $\alpha_2$ -plasmin inhibitor, A 2 PI), 組織型プラスミノゲンアクチベーター (tissue-type plasminogen activator, t-PA), プラスミノゲン (plasminogen, PLG), フィブリンおよびフィブリノーゲン分解産物 (fibrin and fibrinogen degradation products, FDP) を測定し臨床症状との関連を検討した。

硬膜下血腫内容液上清のPLN-A 2 PI complex, t-PA, FDPは高値を示し, A 2 PI, PLGは低値を示した。一方, 慢性硬膜下血腫患者の末梢血液中の線溶因子はいずれも正常範囲内であった。これらは慢性硬膜下血腫における血腫の局所線溶活性亢進状態を示す所見であった。血腫上清の線溶活性因子のうちFDPを除いた4つの線溶活性因子間には互いに有意の相関が認められた。昏迷あるいは昏睡状態の高度意識障害患者における血腫内PLN-A 2 PI complexおよびt-PAは, 意識清明または失見当識, 傾眠を示した軽度意識障害患者のそれに比べ有意に高値を示した。一方, 運動麻痺を示した患者の血腫内PLN-A 2 PI complexは麻痺を認めなかった患者に比べ有意に低い値を示した。頭部CT所見で層形成型を示す硬膜下血腫ではPLN-A 2 PI complexは高値を示す傾向にあった。慢性硬膜下血腫患者の術後硬膜下腔留置ドレーン排出液上清中の各線溶活性因子の推移は, 治癒症例では徐々に減少する傾向を示したが, 再発した2症例ではFDPを除き逆に増加する傾向を示した。術後ドレーン排出液のPLN-A 2 PI complexおよびA 2 PIの増加は硬膜下腔における線溶, 出血, 凝固, 止血のサイクルが再燃したことを示唆するものと考えられた。

以上, 本研究は慢性硬膜下血腫の増大機序として局所線溶活性亢進の重要性を示したものであり神経外傷学の発展に寄与するものと評価された。